

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和7年2月28日		～	令和7年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	96	(回答者数)	26
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	令和7年2月28日		～	令和7年3月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	30	(回答数)	20
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現在は作業療法士や社会福祉士、音楽療法士、保育士を中心に専門的視点で子ども達を多角的に捉えアプローチしています。その中で学校や保育園との連携を図り支援しています。	訪問先での研修や家庭教育学級など、様々な場面で作業療法中心とした療育の考え方の研修を行っています。 また先生方にも療育現場にも足を運んでもらい実際に子ども支援の様子を見てもらいながら情報共有を行なっています。	毎年1回一般の方も参加できる学会を開き地域全体で学べる環境を作っています。そこで色々な議論を通して今後の課題を共有し取り組みに生かしています。
2	令和1年から訪問支援をスタートしました。環境設定や研修、実際の直接支援を行っていく中で、先生方と様々な意見交換を行ってきました。 そこで、バリエーション豊かな支援が広がり、療育の中でも良い実践へとつながっていていると思われます。	先生方との信頼関係を構築するために、直接足を運び、先生方の困り感に真摯に向き合ってきました。 そこで、先生方からも様々な情報をいただけるようになり、それらを通して支援に生かしていくことができています。	学校や園での困り感について、こちらの職員と先生方で共同研修を行ったり、今後は事例などを本や文献にまとめていく作業を進めていけたらと考えています。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問に行けるスタッフには限りがあるため、すべてのスタッフが子どもたちの集団での様子を見て療育支援に生かしていけるようにしたいと考えています。（訪問に行ったスタッフが情報共有は行っています）	人員不足や訪問経験の差によってばらつきがあり、自信のなさから単独では訪問に行けないスタッフもいる状況です。	1週間のスケジュールを調整し、主のスタッフとプラスαのスタッフで経験を積むために同行し、一緒に訪問に行くことで、実際の集団での見立てややりとりを学んでもらうようにしていきます。
2			
3			